

福島尚教授最終講義のご案内

人文社会科学部人文科学コースの福島尚教授（日本古典文学）が2025年度をもって定年退職なさいます。つきましては、下記の要領で最終講義を開催いたします。多くの皆様に参加いただきたくご案内申し上げます。なお、福島尚教授の最終講義は、第74回高知大学国語国文学会研究発表会内で開催致します。当日の14:00~15:50には、在学生・卒業生・本学教員による研究発表も行います。

福島尚 「最終講義に替えて—我がもの学びの来し方行く末」

日時 2025年11月29日（土）16:00~17:05

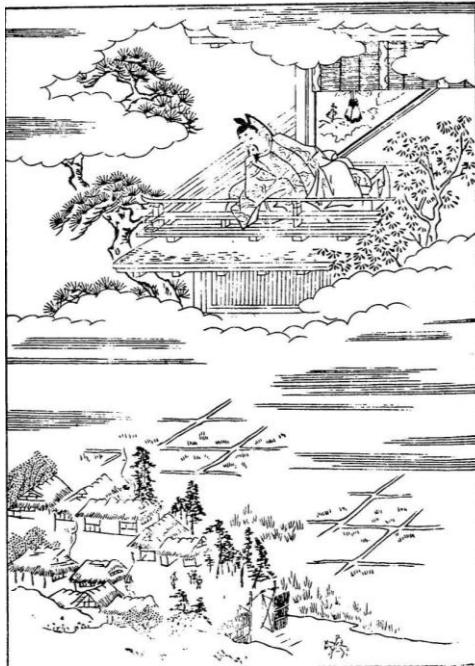
会場 高知大学朝倉キャンパス・共通教育棟137教室

16:00 開会：福島尚教授のご紹介

最終講義 「最終講義に替えて—我がもの学びの来し方行く末」

花束・記念品贈呈

17:05 閉会



もまぬがれがたしなど聞ゆれば、不忠の輩は更になまけの限にあらず。只不覺ならんものよどがゆるして、能なき輩をもあはれははぐむべしとなり。
仁徳天皇は、三年の間みつき物をとめて、民の畑の賑へるを悦せ給ひ。一條院は、冬の夜御衣を脱て、四海の民を思ひやるに、吾獨あたよかなるべからずと仰られける。是また賢王聖主の普き御意を整元齡首までに及し給ふ事、古今不易故なり。君は民をして體とすと云、王は兆民を子とすと云、いかゞあはれみ給はざらん。近ごろ後京極攝政、かくぞよみたまひける。
かほふべき袖こそなけれよの中に寒けきたみの冬のよなく
中にも太子十七ヶ條憲法には、國に二人の君なし、民に二人の主なし。士民御門をもて主とす、司る所の官司は帝の民臣也とぞ。敢て公家と共に百姓を收むとのせられたり。帝範には、夫民は國のさき、國は君の本とあり。かたよみたりかはしくあなつりからむべからず。
天智天皇、世につし給事ありて、筑前國上座郡朝倉といふ所の山中に、黒木の屋を造りておはしけるを、木丸殿と云、圓木にて造故也。今大嘗會の時、黒木の屋とて。

鈴木弘恭校訂『校正十訓抄』から『十訓抄』1の1の本文と挿絵

[問合せ先]

高知大学人文社会科学部人文科学コース（担当：田鎖数馬） E-mail: tagusari@kochi-u.ac.jp